BAISOUIN NEWS AOYAMA

梅窓院通信 青山

新年号

No.62
2013/01/01

第3回秋彼岸写真コンクール
グランプリ受賞作品　「祭りの後に」　撮影:　　様

今年も第4回秋彼岸写真コンクールの開催が決定致しました。詳細は後日発表致します。

住職挨拶

梅窓院第二十五世
中島 真成

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

早いもので平成も二十五年、四半世紀となります。私が住職に就任してからも二十一年が過ぎました。その間、浄土宗東京教区の役職を務めさせていただきましたが、昨年末で一区切り。今年から四年間は御役御免です。

ちなみに梅窓院は、浄土宗の東京教区、城西組、赤坂部に属する寺院で、部の役職、組の長や諸役、教区の議員、理事などといった役職があり、多くは住職がその就任資格になっています。役職に就くことで、他の部や組の方々との交流や懇親が図れ、また一段広い視野で寺を見ることができるのはありがたいことです。

さて、落慶した新伽藍も十年目を迎えることになりました。今年の秋口から足場を組んでの大規模修繕を行います。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

昨秋に開催いたしました文化講演会ですが、青山家の故郷であります郡上から高橋教雄さんにお越しいただき、凌霜隊のお話をしていただきました。明治時代初頭の忠義に生きた郡上藩士の歴史に、六十名を超えるみなさんが聴き入りました。

ご参加いただいた方の中には青山家のご当主とそのご尊父、凌霜隊のご子孫もいらっしゃいましたが、凌霜隊の知られざる逸話や凌霜精神がその後も形を変えながらも大切にされてきたことなど、一時間半に及ぶ講演があっという間に過ぎました。

大変興味深い内容に、こうした梅窓院に縁のある方にお話しいただくのも有意義なことだと気付かされました。皆さまがお話を聴きたい方がいらっしゃいましたら青山文化村までお知らせください。

では、今年も良い一年になりますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

法話

仏教歳時風物詩（20）

小正月の民俗誌

新宿区　香蓮寺住職　勝崎　裕彦

歳時記の時候区分を見ると、〈新年〉の部は、新年・正月・元日の一月一日から、いわゆる初三十日の一月末日までの期間のものであることが分かる。旧暦思想では、一月三十一日はないのである。したがって、立春前の節分行事は〈冬〉の部の季語ということになる。

今回は、新春正月気分をめぐって、日本人がどのように心構えて、身心でしっかりと受けとめてきたのかという一面を、小正月の話を中心に綴ってみたい。

小正月は、一月一日の朔旦正月を大正月ということに対して、一月十四日・十五日（あるいは十六日）を指して称する。陰暦の日読みでは、十五日は満月に当たり、月の満ち欠けによって暮らしていた時代には正月十五日を、一つの大切な節目・区切り目と受けとめたのである。なお、大正月は元日から七日までの松七日とすることもある。

羽子板によほど疵あり小正月　（遠舟）

井原西鶴と深い交友を結んで、元禄期の大坂談林俳諧で活躍していた和気遠舟の句である。たしかに十五日にもなれば、羽根つき遊びに夢中になって興じた子供たちの羽子板も、そして羽根も、大分痛んでしまうことであったろう。古き時代の遠い正月遊びの光景を伝えるものであるが、昭和二、三十年代に子供時代を送った私などにも、実際に経験のある情景である。

さて、小正月の季語欄を見ると、十五日正月・望正月・望年・若正月・若年・小年・二番正月・女正月・花正月などと類語を挙げている。十五日月・満月・望月に因む望正月・望年である。若正月・若年の若は、小さいこと・幼いことの意味で、小正月・小年と同趣旨である。大正月の一番正月に対しての二番正月、これも頷かれよう。

女正月あるいは女子の正月とは、元日を中心とする大正月を男正月と呼ぶことに対してのものである。ただ地方によっては、一月十五日の頃になると、なにかと忙しかった正月年始の家事から女性たちがようやく解放されて、せわしなさを離れてゆっくりとする女性たちのための感謝の女正月と受けとめる解釈をしている。

そして花正月とは、小正月から一月の月末までを花の内と呼び習わしていた東北地方などでの呼称であるという。松飾りを眼目とした大正月に対して、削り花や粟や稗などの雑穀の穂の作り物を飾ったならわしから由来した言い方であるという。美しい言い方であり、たとえば雪の内に正月を迎える人々の春の花を待ちわびるいとしい思いも伝わってくるのである。

小正月の呼び名に関しては、このほかにも、和歌山県の中正月、徳島県の上り正月、対馬地方の戻り正月、あるいは別に送り正月とか帰り正月という言い習わしもある。岩手県ではつかだの年取り、長野県では金物の年取り、また愛知県ではお百姓の正月などという言い方で、それぞれ小正月を祝ってきた。大正月の正式な正月という認識に対して、小正月は地域地方のお国ぶりの特色を生かして、かつてはゆかしい習俗の伝統の中で祝い寿がれてきたわけである。

誰も来よ今日小正月よく晴れし　（立子）

星野立子の句、とてもよい句であると思う。この一年が明るく晴れ渡り、千客万来、人と人とのなごやかなつながりでいっぱいになりますように……。

正月を迎えて過ごす日本人のゆかしい暮らし方の一面が、ここまでの解説の中にもよく表れていると思う。仏教の新年正月には仏正月という言葉があり、季語にもなっているが、これは別の機会に解説することにして、今回は小正月などの伝統習俗の心の継承の中に、改めて日本人の心根を読みとり、仏心のおおらかな祈りと願いを込めて一文をむすびたい。

（大正大学教授）

九・十・十一月の行事報告

十夜法要・芋煮会
11月17日（土）

M・ファン・デン・フックピアノリサイタル
11月25日（日）

文化講演会
10月20日（土）

「郡上藩 凌霜隊 ―今も伝わる凌霜のこころ―」高橋教雄氏

第57回
念仏と法話の会
10月10日（土）

秋彼岸会法要の様子

秋彼岸会法要・彼岸寄席
9月22日（土）

修正会（しゅしょうえ）

2013年1月1日（火）

修正会法要

午前10時～　2階　本堂

お雑煮

午前11時～　1階　観音堂エントランス

※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。
修正会に参列いただいた方から優先的にお雑煮の振舞いをさせていただきます。
なお、数に限りがございますので予めご了承ください。

（絵馬について）
新年のお参りに来ていただいた方にお配りしている絵馬ですが、昨年より元旦のみ一家に一体のお渡しとさせていただくことになりました。
二体以上ご希望の方は事前に文書（FAXかハガキ）でお申し付けください。二体めから一体千円でお譲りいたします。

（暦について）
年末に各檀家さまに1部お送りさせていただいております。2部以上ご希望の方はこちらも文書（FAXかハガキ）にてお申込みください。
2部目から1部千円でお譲りいたします。

修正会によせて

秋、錦のよそおいを見せてくれた遠くの山々も今ではすっかり真白に新雪をいただいております。皆様、初雪はもうご覧になりましたか？

平成二十五年元旦。梅窓院では修正会（しゅしょうえ）という法要が行われます。この修正会は新たな年を迎えるにあたり、悔過（けか）を中心にお堂を清めるという儀式です。悔過というのは仏語で、自らの罪（仏語で、自らが悔改めなければならない行い）を深く反省する事をいいます。

私たちは日々人間の性にふり回され、迷い迷い、生きています。法然上人も、作るまいと思っても作ってしまう罪について

雪のうちに　仏の御名を　称うれば
積もれる罪ぞ　やがて消えぬる　　法然上人御唱

（雪の降る如く罪を重ねている間でも、阿弥陀仏の名を称えるならば、すぐに消えてしまうことよ）

というお歌を詠まれています。

このお歌では私たちの日々積み重なる罪を降り積もる雪と表現しています。降り積もった雪が消えるには時間がかかります。とけない雪もあるかもしれません。しかし阿弥陀仏の光明は、私たちの降り積もった罪をたちまち消し去る働きがあるのです。阿弥陀仏の光明は太陽や月の光を超越した仏の光であり、何ものにも遮られることがありません。だからこそ阿弥陀仏の光明によってのみ、厚く煩悩に覆われた私たちは照らし出されるのです。お念仏を称えて阿弥陀様の光明に触れ、我が罪を消し去っていきたいものです。

一月に行われる修正会では、是非お孫さんを含めご家族揃ってお参りください。そして声高らかにお念仏をお称えし共々に阿弥陀様の光明に触れましょう。

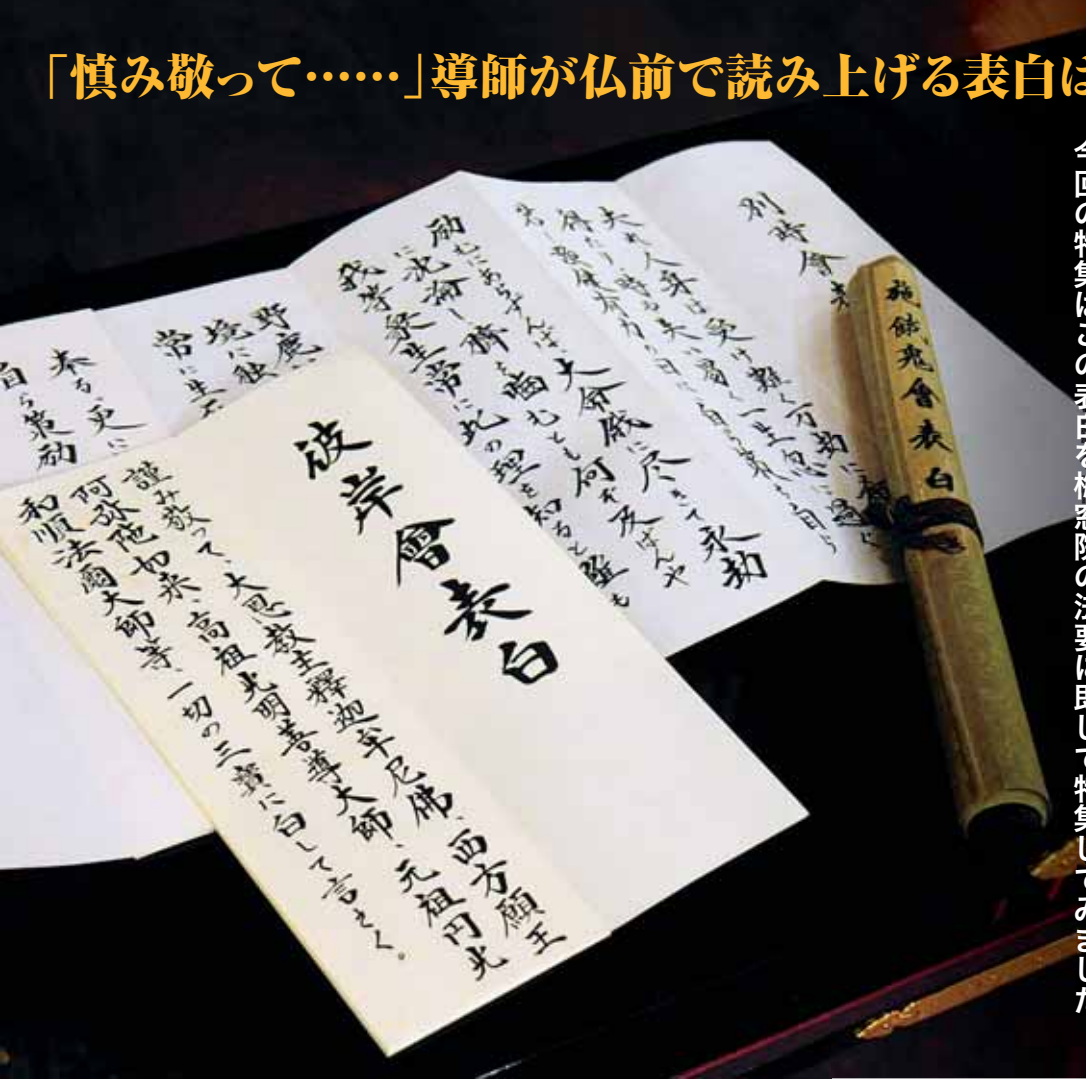
平成二十五年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（法務部）

「慎み敬って……」導師が仏前で読み上げる表白は大切な法要の趣意書

表白（ひょうびゃく）と法要

梅窓院では一月の修正会から始まって十一月の十夜まで十種類の法要を行なっています。そうした法要で、導師（中島住職）が法要の最初の頃にご本尊に向かって読み上げる文章を表白（ひょうびゃく）といいます。今回の特集はこの表白を梅窓院の法要に即して特集してみました。



甲子園での全国高校野球選手権大会の開会式で、球児代表が高らかに選手宣誓をします。右手を挙げて呼吸を整えて「宣誓、私たち選手一同は……」

東日本大震災後の甲子園での宣誓は多くの人に感動を与えましたが、こうした、大会や行事の最初にその心意気や趣旨を言葉にすることは単なる儀式以上の意味を持っています。言葉に魂が込もることを言霊といいますが、想いを言葉にして口にすることはとても大切なことです。

そして仏教には法要の趣旨やその想いを仏前で述べる表白（ひょうびゃく）という趣意書のようなものがあります。天台宗開祖最澄、真言宗開祖空海といった日本仏教の基礎を作った祖師方の表白は格調高い上に、名文として研究されています。

表白を読み上げる中島住職。

梅窓院でもそれぞれの法要で表白が読み上げられています。法要の最初の頃に導師が白い紙を広げて読み上げているのが表白です。そういえば……、と思い出される方もいらっしゃるでしょう。

法要では、まずお香を焚いて我が身を清める、仏法僧の三宝に帰依（きえ）（信仰して頼る）する、仏様にお出ましいただく、自らの罪を懺悔（さんげ）するという偈文（げもん）を唱えてから、この表白を読み上げます。

表白は言葉や言い回しなどが少し難しい所もありますが、梅窓院での各種法要での表白を一覧表にして、その内容を簡潔にまとめましたので、ご覧ください。本特集を一度お読みいただければ、法要に参列して住職の読み上げる表白に耳を澄ましたくなるでしょう。

表白Q&A

Q 決まり文句はありますか。

A 表白の多くは、「謹（つつし）んで」とか「慎（つつし）み敬（うやま）って」という言い方で始まります。またこの言い方をしない時は最後に「敬って白（もう）す」と言います。これは仏さまなど聴いていただく方への敬意を表す表現で、決まり文句です。ちなみに中島住職は自分の僧侶名に続け、「静誉真成（じょうよしんじょう）敬って白す」と締めくくります。

Q 表白は誰に読むのですか

■梅窓院の法要と表白の要約　一覧表

1月　修正会

【修正会表白の要約】
阿弥陀さま、阿弥陀さまの本願に出会えたことは嬉しい限りです。歳が改まるごとにその気持ちも強くなります。そして、今年も一年、国が豊かで平和な日々が続きますようにお導き下さい。

と阿弥陀さまをはじめ多くの仏様にお願いいたします。

2月　念仏と法話の会（別時念仏会）

【念仏と法話の会表白の要約】
人の命ははかなく、思わぬことでいつ亡くなってしまうかわかりません。そうした私たちのために阿弥陀さまが四十八の願いをたてて救ってくださるとおっしゃいました。そのお約束をかなえてくれる念仏を、これから特別な時間を作ってお唱えいたします。

と特別な時間と場所で念仏を唱えることをお伝えします。

3月　春彼岸会

【春彼岸会表白の要約】
お釈迦さま、お釈迦さまが教えくださった中道という、極端を避けて普通の道を行く、左右に片寄らずに行く、という教えがあります。今日は昼と夜の長さが同じで、まさに中道の教えにふさわしい日ですので、修行をおこないます。
（秋彼岸へ続く）

と七日間の修行について述べます。（九月の秋彼岸参照）

4月　灌仏会（花まつり）

表白なし

5月　施餓鬼会

【施餓鬼会表白の要約】
お釈迦さまの弟子である阿難尊者を救うために、餓鬼道に落ちている餓鬼たちに施す為の法要を同じように行ないます。できれば阿難尊者のように福徳延寿できればと願います。また、餓鬼への施しとともに私たちのご先祖の冥福を願います。

とお釈迦さまの弟子の逸話を踏まえた法要とお伝えします。

6月　開山忌

【開山忌表白の要約】
梅窓院を開かれた南龍上人、縁あってこの地にお寺を開かれ、往生の素懐を遂げられましたが、その恩徳のおかげで、今日に至るまでその法灯が受け継がれています。そしてこれからも有縁の僧俗がともに精進して参ります。

と開山上人の御徳を讃え、これからの精進を誓います。

7月　盂蘭盆会

【盂蘭盆会表白の要約】
お釈迦さまが、弟子の目連尊者に授けた母親を救うための作法にならって、仏と法と僧の三宝にお香や灯明、そしてお供え物をいたします。人が父と母あってこの世に生まれ育つことを忘れずに父や母、そして過去七代にわたるご先祖を供養します。

とご先祖へのお礼と供養することを述べます。

8月　法要なし

9月　秋彼岸会

【秋彼岸会表白の要約】
（春彼岸から続く）
秋彼岸での昼夜が同じ長さになる中日を挟む七日におよぶ修行は敏達天皇から始まり、桓武天皇が阿弥陀経に説いてある念仏を称える教えから七日間になりました。それゆえ普段おろそかになりがちな慢心を改めるためにこうして法要を行います。

と彼岸法要に成り立ちを含め、修行に励む意思を伝えます。

10月　念仏と法話の会（別時念仏会）

表白あり（2月と同じです）

11月　十夜

【十夜表白の要約】
阿弥陀さまの本願を中国の善導大師がわかりやすく説明され、それを法然上人が私たち衆生にお伝えいただきましたが、念仏を唱えて往生できるという教えに会えたのは、広い海に浮かぶ木の枝に目が見えない亀がぶつかる（盲亀浮木に会う）ぐらい稀なことで、ありがたいこと極まりありません。そうした気持ちを忘れずに念仏を唱えるための法要を執り行います。

と阿弥陀さまの本願の行、念仏を唱える心持ちを述べます。

12月　法要なし

A　聴いてもらいたい方の名前が最初に出てきますが、仏さまや僧侶になります。それに加えて、その法要に参列されている皆さん、そして僧侶も聴いてもらう対象です。

Q　聴いていると難しい言葉が多いのですが。

A　法要の目的や趣旨を伝える表白は、昔から格調の高い言葉でつづられることが多いうえに、いまではあまり聞かない文語調、しかも同じ意味でも難しい言葉を選びますので、慣れないと分かりにくいですね。何となく感じとってみてください。

Q　内容に共通することはありますか。

A　それぞれの法要で趣旨が違いますが、共通しているのは仏教、念仏の教えに出会えたことへの感謝の気持ちと、これからも日々精進しますということです。当たり前のことですが、この当たり前のことがなかなかできないのが私たちですから、ちゃんと言葉にするのですね。

Q　表白はどうやって聴くのですか。

A　「○○表白」といってカチっと音がして、導師が表白を読み始めますので、合掌して耳を傾けてください。今回の特集をお読みいただければ、今まで難しく感じていた表白が少しわかってくると思いますので、ぜひ法要にご参列ください。

インタビュー

梅窓院を囲む人々

supporters of baisouin

梅真会会員 林昌寺第二十七世住職　　さん

多くの檀信徒さんに支えられている梅窓院は法事や法務も少なくないので、縁のあるお坊さんたちに手伝っていただいています。今も10人近くのお坊さんがいて、自宅や学寮から通っていますが、昔は梅窓院の住職やその家族と一緒にお寺内で生活していました。今回ご登場いただく　　住職もそうした頃のお一人です。御殿場の富士山の麓にある　　住職のお寺に伺いました。

◆本日はお忙しい中、押しかけまして失礼いたします。

住職（以下　　）　いいえ、遠くまでお越しいただき恐縮です。ちょっと曇り始めましたが、富士山も楽しんでいってください。

◆ありがとうございます。

さっそくですが、住職はいつ頃梅窓院にいらしたのですか。

昭和44年から48年までの大正大学時代の4年間です。あっ、途中に先代住職の奥様と大げんかして半年ほどアパート暮らしをしましたけれどね、もう時効ですね（笑）。

◆お坊さんになろうとする人がお寺に住んで、勉強したり修行したりする生活を「随身」（ずいしん）と言うそうですが、その仕組みを教えていただけますか。

地方のお寺の跡取り息子が、東京の大きなお寺に住み込んで、お寺の手伝いをしながら僧侶の資格をとるために大正大学に通い、修行、勉強することなのですが、学費と生活費、それにお小遣いまでお寺が出してくれることですね。あっ、他のお寺は知りませんが、梅窓院ではお小遣いもくれたのです。

◆結構お寺が面倒をみるのですね。

そうです。随身する本人はもとより、お世話になるお寺にとっても大変ありがたい仕組みです。

◆大寺が小寺の面倒をみるという、相互扶助ですね。随身の学生がする修行や仕事はどんなことですか。

朝5時半からの山門開け、起床の版木を鳴らし、勤行です。お経が終わると食事の準備、そして掃除ですね。一人で全部ではなく当番制でした。加えてその他雑用です。

昼はもちろん学校で勉強します。そして、晩御飯を住職以下みんな一緒に食べるのが梅窓院流で、遅くまでの授業の日は急いで帰りました。そして、土日は行事や法要の準備やお手伝いですね。

◆なかなか忙しそうですね。

その頃は都内にこうした随身を置く寺がいくつもあって、学校で随身仲間が、うちはご飯が美味しい、人使いが荒い、土日が忙し過ぎる、なんてみんなで比較しあっていましたね（笑）。

◆随身時代、梅窓院にはそうしたお坊さんが何人もいらしたのですか。

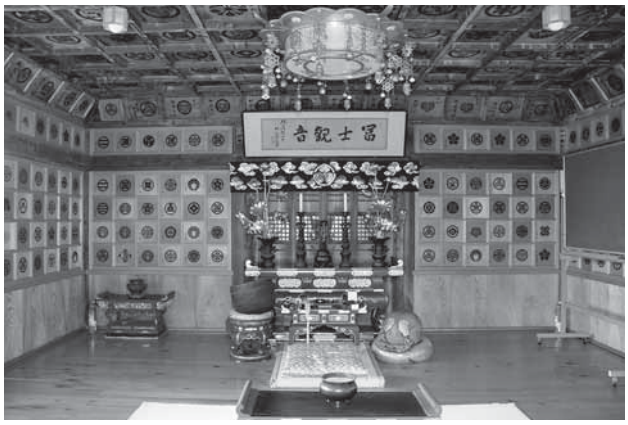
木造の観音堂ホールの2階の3部屋に2人ずつでしたから、6人ですね。

◆結構いたのですね。

4年生が出ていくと1年生が入る、上下関係はしっかりあって、何でも先輩から教わりました。私の頃は佐賀、京都、愛知、岩手など全国から集まっていました。

◆　　さんのような随身を始め、今の通いのお坊さんたちの会を梅真会と名付け、今でも集まっていると聞いていますが……。

昨年の梅窓院の施餓鬼会でも当時の仲間とあって、懐かしかったですね。やはり同じ釜の飯を食うと仲良くなりますね。



富士観音を祀る観音堂には檀家の家紋が並んでいる。

◆ところで、住職が梅窓院に随身したきっかけを教えてください。

ここからすぐ近くの善龍寺の　　住職の紹介です。先生も梅窓院に随身されていましたので。

◆人から人へ、縁を結んでこられているのですね。ところで、住職がお坊さんになるきっかけは何ですか。

私は7人兄弟の末っ子でしてね。上二人が姉で、その下から4人兄がいました。二男は幼い頃、四男も二十歳前に亡くなっています。そして、跡継ぎ候補だった2人の兄がともに会社員になり……。

高校生だった頃、学校帰りに近所のおばさんの荷物を持ってあげたことがあって、その時、「ボクがいなくなると寂しくなるね」と言われて……。この言葉がずっと残っていましてね。その一言が後を継ごうと決めた一番の理由ですね。

◆最後に随身時代のエピソードを教えてください。

御殿場の田舎から出てきましたから、夜中の12時過ぎでも若い女の子が歩いているのが衝撃的でしたね。若かったから夜中にお腹がへってね。こっそり抜け出すのですよ。ある時、締め出された先輩が屋根から入ろうとして泥棒と間違われて、パトカーが出動しました（笑）。

今も棚経で回った檀家さんと年賀状のやりとりがあったり、懐かしい思い出ですね。

◆今日はお忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございました。今後とも梅窓院をよろしくお願いいたします。

懐かしい随身時代を語る　　住職。

昭和25年7月9日静岡県御殿場生まれ。
48年大正大学仏教学部浄土学科卒業。御殿場市役所に勤務し、54年より林昌寺住職に。林昌寺は明応3（1492）年林昌和尚によって中興された浄土宗寺院。御厨観音巡礼第8番札所。昭和26年から続く節分の豆まきは有名で多くの参拝者が訪れる。

青山散歩道

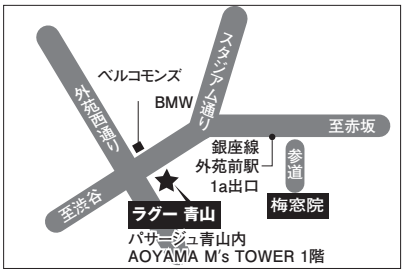
Ragout AOYAMA

店名にもなっているＲａｇｏｕｔ（ラグー）とは煮込み料理という意味で、シチューがメインの洋食のお店。

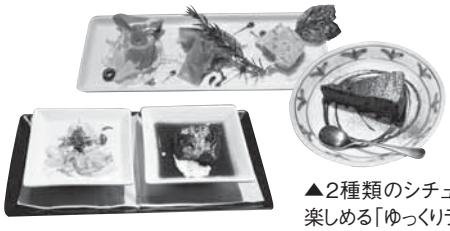
５種類のシチューの中のおすすめはビーフシチュー。小麦粉等のつなぎを使わないソースは、２日半煮込んだ野菜を手でこした絶品。柔らかいお肉に野菜の味がきちんとしみこんでいます。

写真のゆっくりランチセットはこのビーフシチューとクリームシチューが楽しめます。ディナーで人気のロールキャベツもトマトクリーム系で飽きがこないさっぱりとしたお味です。看板の煮込み料理以外にもパスタやステーキ等の洋食も楽しめます。

オーナーの友人がデザインしたという店内は明るく温かい雰囲気。全てテーブル席で十八名様までご利用いただける個室もありますし、梅窓院から徒歩２分ですのでお墓参りの後などに行ってみてはいかがでしょう。



営業時間／ランチ11:30～15:30（L.O15:00）
ディナー17:00～23:00（L.O22:00）
定休日／日曜日　予約／ランチタイム不可。団体予約は平日17:00以降可。土曜15:00以降は応相談。
席数／63席
住所／東京都港区南青山2-27-18 Passage Aoyama 1F
TEL／03-6406-8880　FAX／03-6406-9090



▲2種類のシチューが楽しめる「ゆっくりランチセット」（写真）は2100円。ビーフシチューランチは1400円。

▲お店のロゴが入った大きなガラス窓が目印になる。

店内の様子。▶

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長
大崎 紀夫

◎**特選**
○初潮の潮目潮目に釣ふ舟

◎**入選**
○秋暑し読経短く終りけり
○汗ぬぐふ日々はつづけど虫の声
○菊坂に井戸残りたる一葉忌
○観能の後のたかぶり今年酒
○窓開けてそつと入れたる秋の風
○秋空と思ふ爽やかなる風に
○秋日和心に一句浮かびけり
○日の昇る海のあかるさ文化の日

◎**選者詠**
○午後の日のあかるく猿の腰掛けに　**大崎　紀夫**

〈ワンポイントアドバイス〉
高浜虚子は、俳句を「四季の移ろいとそれにともなう人事をうたう詩」といいました。わたしもその立場をとっています。わたしが主宰している結社の人たちには、自然と向き合う思いを俳句に淡々と詠むことをすすめています。俳句だけではなく、人がこの世にいる限り、自然の一部である自分が、自分を取りまく自然と向き合っていくことは大切なことだと考えています。それは仏の心にも通じるのではないでしょうか。

投句募集

次回は「冬の季語」でご自由にお詠みください。1月12日（土）を締切、平成25年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募ください。尚、選者が添削したものを掲載する場合がございますのでご了承くださいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第四十九回

食は命なり

食養研究家
武 鈴子

特有の香りが食欲を増す「春菊」

特有の香りが日本人に好まれ、すき焼きや冬のなべ物には欠かせない春菊。旬は11月から3月。冬においしくなる野菜です。名前の由来は、形が菊の葉に似ていて、春に黄色い花を咲かせるのでこの名がつきました。関西ではキクナとも呼ばれます。

原産地は地中海沿岸。ヨーロッパでは観賞用として栽培され、食用にしているのは日本や中国など東アジア地域だけです。

古くから胃腸炎や腫れ物に効果があるといわれていましたが、近年、ガン予防に効果をもたらすと注目されている食物の一つです。特有の香り成分は、自律神経に作用して胃腸の働きを活発にし、痰を切る働きがあるといわれます。濃い緑色・クロロフィルは血中コレステロールを下げる働きがあり、豊富に含まれるカロテンは、風邪を予防し、ビタミンCとの相乗効果で肌を健やかにします。胡麻和え、白和えなど脂質の高い種実類や豆腐や魚肉などと一緒にとると、カロテンの吸収が高まります。すき焼きや寄せ鍋などに入れる場合は、最後に加えてすぐに引き上げるようにすると香りとシャキシャキ感を損なうことなくいただけます。

☆春菊とささみの胡麻和え海苔風味

春菊はさっと塩ゆでして冷まし、よく絞って水気を切り、3cmの長さに切る。鶏ささみは蒸して適宜裂く。

{和え衣をつくる}:ボウルにすりごま（黒）大さじ3、砂糖　大さじ1/2、醤油　小さじ2、塩少々、ごま油小さじ1を合わせ、春菊とささみを入れて和える。器に盛って、食べる直前に焼き海苔をほぐしてのせる。

平成25年 年間行事予定

◆修正会	1月1日(火)
◆第58回 念仏と法話の会	2月22日(金)
◆春彼岸会法要・寄席・物産展	3月20日(水)
◆はなまつり	4月5日(金)～8日(月)
◆団体参拝旅行 群馬 浄運寺	5月8日(水)～9日(木)
※詳細は春彼岸号にてお知らせ致します。	
◆大施餓鬼会法要	5月18日(土)
◆開山忌法要	6月8日(土)
◆第59回 念仏と法話の会	6月12日(水)
◆盂蘭盆会法要	7月13日(土)
◆秋彼岸会法要・寄席	9月23日(月)
◆文化講演会	10月中旬予定
◆十夜法要・芋煮会	11月16日(土)
◆M・ファン・デン・フック・ピアノリサイタル	11月開催予定

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。

行事予定

第58回 念仏と法話の会

2月22日(金)
時間　12時半～(受付12時より開始)
法話　「小学校教育と仏教心」
講師　群馬教区　長壽院
　　蟹和 秀顕 上人

梅窓院よりお知らせ

護寺費・年会費・管理費の振込について

平成23年4月ご入金分以降は、「振込控え」を請書の替わりとさせていただくこととなりました。ご事情により当院の請書が必要な方は、郵便振替の方は通信欄にご記入いただき、コンビニ振込の方は、お手数ですがお電話かお手紙にてお申し付けください。
尚、請書の郵送に4週間程かかる時がありますので、ご了承ください。
(ご持参される方には、これまで同様に請書を発行致します)

ご法要後の後席について

1月1日よりこれまでの「配膳料」を廃し、ご使用のお部屋数に応じた「お部屋代」とさせていただくことになりました。
お支払いはこれまで通り料理屋へお願い致します。
詳しくは受付までお問い合わせください。

発　　行／梅窓院
発 行 日／平成25年1月1日
発 行 人／中島 真成
編　　集／青山文化村
住　　所／〒107-0062
　　東京都港区南青山2-26-38
電　　話／03-3404-8447
F A X／03-3404-8436
ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題　　字／中村康隆元浄土門主
　　総本山知恩院第八十六世門跡

平成24年度 後期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時　受講料▶無料　場所▶祖師堂

講　題／**お経を読む**
講　師／**阿川 正貫 先生**(浄土寺住職、大正大学講師)
- 第3回…2月19日(火) 仏身観文 (『観無量寿経』より)

講　題／**永観の『往生講式』を読む**
講　師／**新井 俊定 先生**(天然寺住職)
- 第3回…1月29日(火)『往生講式』第六 因円果満門

講　題／**大乗仏教を読む**
講　師／**勝崎 裕彦 先生**(香蓮寺住職、大正大学仏教学部長・教授)
- 第2回…1月10日(木) 法華経の構成
- 第3回…2月14日(木) 序品第一の教え

講　題／**法然上人のみ教え —『選択集』を読む—**
講　師／**林田 康順 先生**(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)
- 第2回…1月21日(月)『選択集』第5章 —念仏利益について—
- 第3回…3月11日(月)『選択集』第6章 —念仏留教について—

講　題／**ブータンから学ぶ幸福のカタチ**
講　師／**本林 靖久 先生**(真宗大谷派僧侶、大谷大学、佛教大学講師)
- 第2回…2月1日(金) 王政と民主化
- 第3回…3月1日(金) 仏教と人生観

※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。
講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めてください。

新企画 お檀家さんに伺いました

「心が洗われる思いです」

平成24年10月10日
念仏と法話の会にて

様

日々忙しいと、なかなか静かに自分の心を整理することができませんが、お念仏を無心になって唱えることで心が洗われます。ご法話もいいお話を聞かせていただいています。

「お寺の話を聞きたい」

平成24年10月20日
文化講演会にて

アンケート(匿名)より

知らないことを身近に感じました。今後もお寺に関わる話をしてくれる人の講演を楽しみにしています。

※「我が家の孫」コーナーに変わる新コーナーです。行事やお墓参りなどでお寺にお越しいただいた方にご感想やご意見を伺って作るコーナーです。